

正式調印から数えて5回目を迎えた兵庫・沖縄友愛提携推進事業におけるジュニア交流試合ですが、年々、驚くべきスピードで沖縄の選手のレベルが上がっていることを確認できます。

2009年、全国中学生テニス選手権大会において、久貝太一、玉城翔平組はベスト4、全日本ジュニア選手権大会18才以下シングルスにおいて、伊波佳苗選手はベスト4、さらに同ダブルスにおいて、伊波佳苗、久貝美瑠希組は準優勝という成績がそれを物語っています。

初日の最高気温は25度を超え(その他の日は平均17度くらい)、まるで夏を思わせるような気候の中で、しかも相手に不足はなく、存分にテニスができました。

さて、この事業は故島田叡知事の生き方、生き様が両県の架け橋になっています。

島田叡は、1901(明治34年)、開業医・島田五十三郎の長男として生まれた。旧制神戸二中(現・兵庫高等学校、第三高等学校を経て、1922年(大正11年)に東京帝国大学法科へ入学。中学・高校・大学と、野球に熱中し、東大時代は神宮球場のスター選手として、また、ラグビー部とも掛け持ちするなど、スポーツマンであった。東大卒業後、1925年(大正14年)に内務省に入省する。主に警察畑を歩み、大阪府内務部長を務めていた1945年(昭和20年)1月10日、沖縄県知事の打診を受け、即受諾した。各官庁と折衝すると称して東京に頻繁に出張していた前任者の泉守紀には、出張中にも係わらず、香川県知事の辞令が出された。沖縄への米軍上陸は必至と見られていたため、後任者の人選は難航していた。沖縄に米軍が上陸すれば、知事の身にも危険が及ぶため、周囲の者はみな止めたが、島田は「誰かが、どうしても行かならんとあれば、言われた俺が断るわけにはいかんやないか。俺は死にたくないから、誰か代わりに行って死んでくれ、とは言えん。」として、日本刀と青酸カリを懐中に忍ばせながら、死を覚悟して沖縄へ飛んだ。

同年1月31日、島田は赴任するとすぐ、前任者のもとで遅々として進まなかった北部への県民疎開や、食料の分散確保など、喫緊の問題を迅速に処理していった。同年2月下旬には台湾へ飛び、交渉の末、蓬莱米3000石分の確保に成功。翌3月に、蓬莱米は那覇に搬入された。こうした島田の姿勢により、県民は知事に対し、深い信頼の念を抱くようになった。

同年3月に入り空襲が始まると、県庁を首里に移転し、地下壕の中で執務を始めた。以後、沖縄戦戦局の推移に伴い、島田は壕を移転させながら指揮を執った。軍部とは密接な連携を保ちながらも、およそ横柄などころのない人物で、女子職員が洗顔を勧めると「お前が命懸けで汲んできた水で顔が洗えるかい」といい、他の職員と同様、米の研ぎ汁に手拭いを浸して顔を拭いていた。

同年6月9日、島田に同行した県職員・警察官に対し、「どうか命を永らえて欲しい。」と訓示し、県及び警察組織の解散を命じた。同年6月26日、島田は荒井退造警察部長とともに摩文仁(糸満市)の壕を出たきり消息を絶ち、今日まで遺体は発見されていない。

1945年(昭和20年)7月9日、島田の殉職の報に際して、安倍源基内務大臣は、行政史上初の内務大臣賞詞と顕功賞を贈り、「其ノ志、其ノ行動、真ニ官吏ノ龜鑑ト謂フベシ」と称えた。内務大臣が一知事に対し賞詞を授与することは、前例がなかった。



1951年(昭和26年)、県民からの浄財の寄付により、島田をはじめ死亡した県職員453名の慰霊碑として、摩文仁の丘に「島守の塔」が建立された。さらに、島田知事に始まる兵庫と沖縄の友愛の精神を次の世代に伝えるべく、沖縄が本土に復帰した1972年、兵庫県内の青年たちが提唱し、同年11月、「兵庫・沖縄友愛提携」に調印。募金運動で約2億円を集め、75年6月、那覇市に「沖縄・兵庫友愛スポーツセンター」が完成した。また、高校野球で夏の県大会を制した高校には、「島田杯」が授与されることを見ても、いかに島田知事が県民に敬愛されていたかが分かる。

出典: フリー百科事典『Wikipedia』

テニスにおいても、兵庫及び沖縄のジュニアテニスの育成、強化のみならず、文化の交流や両県の歴史的な結びつきを認識し、選手間で友情を育むことを目的として2006年1月からこの事業が行われています。その際に交流試合優勝チームに両県民有志の募金で制作された「島田叡杯」を贈呈し、両県の友愛提携のはじまりを築いてくださった島田叡さんのことを、末永く語り継ぐことになりました。

島田叡杯交流試合のメンバーは、兵庫県の親善大使として沖縄県選手たちとのテニスと心の交流を通じて、両県の友愛事業の一翼を担っています。

このたび、標記の沖縄遠征に随行させていただく機会を与えていただきましたことに、厚くお礼申し上げます。事前打合せ会に不本意ながら出席できなかったことから、出発まで心の準備ができず、どのような立場でお役にたてるのか戸惑いがありました。しかし、沖縄に着きましてからは沖縄県テニス協会の役員の方々の指示のもと、移動なり行動などすべてが流れるように進み選手たちになんら戸惑いは見られませんでした。それに伴い小生の気持ちも落ち着き、自然体で交流の場に入れていただきました。

1月4日(月)は晴天で気温も25度近くまで上昇する絶好のコンディションでした。会場は「漫湖公園テニスコート」で、砂入り人工芝コート10面がありました。昼食後、ダブルスの交流試合が行われました。寒いところから急に暖かいところに移動しての試合に、水を得た魚のようにのびのびとプレイする選手たちを見つけていました。

5日(火)は曇天で霧雨が降る、うってかわって肌寒い天候になりました。朝9時から1時間のウォーミングアップのあと「シングルの交流試合」をはじめました。相手を換えて2試合ずつ行いました。この日は、協賛企業であるアメアスポーツジャパンの福永二郎氏による講習会が企画されておりました。午後1時30分から約3時間、コート4面でシングルの試合を中断して、充実した活気のある指導が行われました。

6日(水)は前日同様曇天で時々小雨が降る肌寒い天気でした。この日から会場を「奥武山テニスコート」(砂入り人工芝13面)に移して、『第5回島田叡杯・兵庫・沖縄ジュニアテニス交流試合』が行われました。男女ともダブルス3試合、シングルス6試合、合計18ポイントで競いました。結果は17対1で勝利しました。表彰式では優勝杯とともに琉球ガラスの記念品も贈られました。夜はこの日まで宿舎としていた「沖縄国際ユースホテル」でバーベキューパーティーがあり役員・選手全員がおおいに交流を深めました。

7日(木)は曇り時々晴れ、また時々雨といった大変不安定な天気でした。この日は年齢の区別なしのシングルストーナメント、名づけて『いちやりばちよーで杯』を行いました。8ゲームマッチで行われ、男子の優勝者は矢多弘樹君、女子は山本みどりさんでした。この日が交流会最終日で午後4時ごろ沖縄の皆さんに見送られてバスに乗り込みこの夜の宿「ホテルニューおきなわ」に移動しました。

8日(金)は8時10分にホテルを出発し、玉泉洞沖縄ワールド、沖縄カラス村等を観光し沖縄空港発13時55分のANAで伊丹空港に16時30分に到着、解散した。

この遠征では毎夜、沖縄県テニス協会の役員の方々と賑やかな交流の場を持つことができ、多くの情報交換ができたことは大きな収穫でありました。なかでもジュニア育成の底辺をいかに広めるかという課題については、沖縄では自治体が主宰するスポーツ少年団のなかにテニス部を設けて小学校を中心にしたテニスの指導を行っているという話があった。副理事長の玉城智氏はその生みの親であり、役所との交渉のノウハウなどいつでも話をしに行きますよと言われていた。

今年は沖縄で「ちゅら島沖縄総体2010」が行われることからテニス競技の準備に熱い想いで臨んでおられる様子が感じられました。

今回、兵庫県代表チーム引率のお話をいただき、沖縄遠征に同行させていただきました。参加した選手たちにはもちろんのこと、指導の立場にいる私たち自身の心のアンテナをも大きく振らせる貴重な経験や機会であったと思います。このあと、思いつくままに今回の遠征を終えての私見を記します。

4日間を通じて、2つの全国総体予定会場のテニスコートを、終日全面借り切った練習、そして数多くの試合。いくらトップレベルの選手の交流とはいえ、子どものテニスの練習のためだけに、公共のコートを4日間も独占使用させていただけることに、この交流事業に対する沖縄県テニス協会の強い位置づけを認識させられるとともに、兵庫県チームとしての責任を強く実感させられることとなりました。

では、兵庫県チームはこの遠征で、何を得て、何を残してることができたのか？

沖縄県チームが求めているものは、兵庫県のトップ選手のテニスに触れることでした。そんな沖縄県チームの注視する視線を浴びる緊張感のなかでテニスをするのは、兵庫の選手にとって何よりも強くテニスをする楽しみや充実感を感じることができる、かけがえのない機会であったように思います。感受性豊かな30数名の両県の選手たちにとって、きっと何かを感じ、何かを得ることができた遠征であったに違いないでしょう。

選手・役員全員出席のバーベキューパーティー。目を引いたのは、兵庫県チーム17歳以下の4名でした。

まず、男子の両名がパーティーを盛り上げようと頑張り、沖縄県からの充分すぎるホスピタリティーに、感謝して応えようとする姿がよくあらわれていました。

沖縄県高体連の新垣先生からサプライズで持参していただいた刈りたてのサウキビ。好奇心と笑顔に満ち溢れ、先頭を切ってサウキビを剥いてはかぶりついていた女子の両名の姿も、本当にほほえましく、きっと心から可愛い子たちと思われていたことでしょう。

高校生の人間的な成長は、引率者として、頼もしいものでした。15歳・13歳の選手には、テニス技術の向上はもちろんのこと、ぜひとも継承し発揮して欲しい姿であると思います。

この沖縄遠征が、今後も継続され、両県テニス協会のさらなる発展に結びついていくように、これからもお手伝いすることができればと思います。引率の機会を与えていただきまして、本当にありがとうございました。

◆2009年12月10日(木) 結団式◆

明石のグリーンヒルホテルにおいて、フィリピン遠征参加者とともに結団式が行われました。学校行事や大会参加、体調不良の関係で全員集合とはいきませんでした。遠征の説明会のあとそれぞれが自己紹介や決意表明をし、ここに2009年度の沖縄遠征チームが結成されました。

◆2010年 1月 4日(月)◆

伊丹空港に着いてみると、ロビーはもちろんチケットカウンターや預かり荷物検査場が大変な混雑で驚かされました。荷物を預けたあと、さらにボディチェックを受けなければならないので選手の集合状況が気になりましたが、どの選手もゆとりをもって着いていたので、長蛇の列に並びながらも出発の15分前には搭乗口に行くことができました。昨年に比べると大変な混雑だったようで、早め早めの行動が有効でした。

結局、飛行機の関係で離陸が約30分遅れてしまいましたが、那覇空港で横断幕の歓迎を受けて集合写真を撮った頃には、兵庫との違いすぎる気温差を感じました。空港からバスで直接、漫湖公園テニスコートへ移動し、開始式のあと年齢別のダブルス交流試合を行いました。飛行機の疲れを感じている選手や久しぶりのオンコート練習という選手もいましたが、全員が上着を脱ぎ半そで短パンでコートにたちました。この日の最高気温、25℃。遠征初日から、恵まれたこの環境を痛感することになりました。16:30頃から沖縄・兵庫両チームそろってのクーリングダウンを行い、沖縄国際ユースホテルに向かいました。

◆2010年 1月 5日(火)◆

朝7時から散歩・体操・朝礼。雨がいつ降り出すかというような空模様でしたが、朝食のあとラケットキャリーをバスに積み込み、選手はランニングで漫湖公園に向かいました。雨が降ったり止んだりするなか、シングルの試合をどんどん行っていきました。曇天で昨日より気温は低かったのですが、それでも兵庫のこの時期とは比べものにならないほどで、選手は汗を流していました。

午後はアメアスポーツ講習会が開かれ、沖縄・兵庫の両選手とも真剣な眼差しで講師の方のアドバイスに耳を傾けていました。小雨が降るなか、次々に指示される練習メニューに、一生懸命取り組む姿が印象的でした。

17:00頃ユースホテルに戻り、夕食前にDVD『沖縄県知事・島田勲』を観ました。兵庫県出身である島田氏の、戦火激しい沖縄での功績や人柄に加え、沖縄県と兵庫県の交流に至る経緯を学びました。

◆2010年 1月 6日(水)◆

昨日同様、朝7時から散歩・体操・朝礼。昨夜降り続いていた雨もあがっていました。場所を奥武山公園テニスコートに替え、いよいよ島田杯が始まりました。タイブレークマッチやファイナルセットに及ぶ激戦もありましたが、兵庫チームが17勝1敗で勝利を収めました。表彰式では、選手だけでなく我々兵庫チームのスタッフにも、琉球ガラスで作られた素敵なおメダルを用意していただき、感謝しました。

夜は、沖縄・兵庫両チーム総出でバーベキューをしました。この時には、チーム・年齢・性別の垣根を取っ払ってテーブルを囲み、全員が一言ずつのスピーチをしてさらに交流を深めました。高校生のリーダーシップにより、大変楽しい夕食となりました。またスピーチでは、夏に開催される沖縄インターハイに向けた頼もしい内容のものが多く、沖縄・兵庫両チームの意識の高さがうかがえました。

◆2010年 1月 7日(木)◆

曇っているものの雨の心配がない朝、テニスができる最終日をむかえました。ユースホテルの方々に別れを告げ、奥武山公園テニスコートで年齢を越えたフリーの個人戦『いちやりばちよーでえー杯』が開催されました。「いちやりば」＝「出会えば」、「ちよーでえー」＝「兄弟」、つまり「一期一会」という意味の沖縄の言葉だそうです。沖縄チームの粘り強さが印象的でした。結果は、男女とも兵庫チームの優勝となりました。

『いちやりばちよーでえー杯』のあと、我々兵庫県スタッフ中心のレッスンを予定されていましたが、時間の関係で中止し、さまざまなペアリングでのダブルスを楽しみました。

◆2010年 1月 8日(金)◆

沖縄遠征最終日は研修ということで、ホテルニューおきなわを8:15に出発し貸し切りバスで、おきなわワールドと琉球ガラス村に向かいました。玉泉洞の見学や体験、特産物に触れることで沖縄の文化を学習しました。早めに那覇空港に到着し、搭乗準備に備えましたが、沖縄県スタッフの方々がお見送りに来てくださいました。予定どおりに伊丹空港に着き、解散式を行い5日間の沖縄遠征終了となりました。

◆終わりに◆

今回お世話になりました沖縄県テニス協会のみなさま、沖縄遠征スタッフの方々、そして兵庫県テニス協会のみなさま、本当にありがとうございました。この沖縄遠征の意義は大変大きく、また恵まれたものであったと改めて感じています。この時期に半そで1枚でたくさんの試合ができることはもちろんのこと、各自の課題をはじめとする技術面だけではなく、精神面、また選手として、人としていかに自分を高めていけるかなど、多くのことを考え学ぶことのできる5日間でした。沖縄チームの選手は、挨拶・返事などの礼儀やコートでのマナー・立ち振る舞いなど何より元気よく、一緒にいてとても気持ちのいいものでした。兵庫チームも負けてはいられません。朝礼やミーティングでよく言われた感謝の気持ちをこれからも持ち続け、選手として人としてさらに成長してくれればと強く願います。そしてこれからも、この遠征が沖縄・兵庫両チームにとって大きなウエイトをしめるものであり続けてほしいと思います。

本年夏に開催される沖縄インターハイをはじめとする多くの大会で、選手に再会することが今から楽しみです。今後も沖縄・兵庫両県のテニス界のますますの発展と、選手の活躍を期待しています。

僕は沖縄遠征を経て、テニスに必要な練習方法を知ったり、新しい知識をたくさん得る事ができました。沖縄の選手は非常にアグレッシブなプレーをして、何度も窮地に追い込まれました。兵庫の人たち以外の何かを持っていると思いました。色んな人と数多く試合ができた事で、試合経験が短期間で増えました。

夙川学院の関根先生は、沖縄に行く前から、「学ぶ事はテニスだけではない。」と言っていました。その言葉は本当でした。沖縄の人との交流をうまくできる能力も、学ぶ事の一つだし、食に関してだし、学ぶ事はたくさんありました。

沖縄でスタッフをしていた与那嶺大輔さんは、朝礼でこんな事を言っていました。「この兵庫県と沖縄のせっかくの交流を、途絶えさせないでください。」この言葉を聞いた僕は、その時から考え方が変わりました。どちらかというと、広く浅いよりは、狭く深い関係の友達が多かったのですが、せっかくなら広く深く友達を作っていければ良いと思いました。

大輔さんは、物凄く人柄が良くて、絡みやすい人でした。「僕がここまでやって来れたのは、ここにいる先生達がいるからであり、人脈はとても大切です。」とも言っていました。まさに人脈がある人だと思いました。人生を成功させる上で、人脈は大切だとわかり、自分と合わない人でもうまく付き合っていきたいと思いました。その日から、積極的に沖縄の人に話しかける勇気が湧いて来ました。

このように沖縄遠征は、テニスを朝から日没までずっとできて、技術を切磋琢磨して身につけるだけではなく、人間に必要な要素も身につけることができました。この遠征はただテニスをするためだけの遠征ではない事を実感した時、関根先生の「学ぶ事はテニスだけではない。」という言葉が頭に浮かび、この言葉は、自分が経験した上で、本当だったのだと思いました。

沖縄で色んな事を学べた上、楽しめた事が一番の良い思い出です。

僕はこの遠征で初めて沖縄に行きました。去年はフィリピン遠征に参加させていただき、とても良い経験ができました。今回の沖縄遠征でも貴重な経験ができると思い、大変楽しみにしていました。

1日目、伊丹空港発の飛行機に乗り、昼前に沖縄に着きました。飛行機を降りてまず驚いたことは兵庫との気温差の大きさです。その日は兵庫とは十度近くも差がありました。晴れていたこともあり、とても暑かったです。

空港に着いてから練習場まではバスで移動しました。練習場に着いてからは、沖縄テニス協会の方々が大変歓迎してくださり、地元の選手たちも一緒になって歓迎してくれました。

昼食後は開会式が行われ、その後練習場に入りました。練習を始めてみると、兵庫と沖縄で気温が急激に変わった中で、息がすぐにあがりました。少し動いただけでもすぐに息があがるので初めはすごくしんどかったです。しかし、すぐにそれにも慣れて、そこからは沖縄の選手とダブルスの練習試合をしました。ペアを組んだ関学の藤君とは初めてのダブルスだったのですが、良いプレーができて良かったです。

2日目も練習試合をして、沖縄の選手たちと交流を深めることができました。

そして、3日目は沖縄対兵庫の団体戦、島田杯を行いました。団体戦ということでとても緊張しましたが、自分のシングルスとダブルスは勝利することができ、団体としても勝利できたので良かったです。

その日の夜は、沖縄テニス協会の方々、沖縄の選手、兵庫の引率の先生方、兵庫の選手でバーベキューをやりました。大変盛り上がり、沖縄の方々と最後の夜を楽しむことができました。

4日目は個人戦があり、それでテニスの団体は終了しました。

5日目は観光で、沖縄ワールドと、ガラス村を見学しました。沖縄ワールドは、沖縄の文化にふれることができ、大変良い経験ができました。ガラス村では実際にガラス作りを間近で見学できて、驚くことがたくさんありました。

この4泊5日の沖縄遠征で、見ず知らずの僕たちを心から歓迎してくれた沖縄の方々の気持ちの温かさや、3食おいしいご飯を食べさせてもらえたり、1日中自由にテニスのできる環境を与えてもらえることから感謝の気持ちを学びました。この沖縄での経験をこれからの人生に役立てたいと思います。

私は、この沖縄遠征という素晴らしい企画に参加させて頂いて本当に感謝しています。  
有難うございます。

私が以前この遠征に参加させて頂いたのは12歳の時でした。京都から兵庫に移籍して来た年だったので、兵庫県はサポートが凄いなあと感じました。色々な事を学んだ 最年少で参加させてもらった2006年の遠征。あれから4年経った今回は、一番上の学年で、しかもキャプテンでした。以前から「皆を引っ張って行こう」「盛り上げよう」、自分が一番低学年で参加した時に年上の人から優しくしてもらった事を、自分がしてあげないといけない立場だと思っていました。

沖縄に着いた1日目は こちらに比べるとかなり暑かったのですが、体力的には支障はありませんでした。久しぶりの沖縄のメンバーとも再会出来て 嬉しかったです。

テニスは必ず相手がいないと出来ないスポーツだから、全国に沢山の友達がいるのは、いかに自分が恵まれてるんだなあって実感します。

この日も交流試合がありました。テニスをしに来ていると言う感情も強かったので、私の顔がこわばっていたと思いますが、皆が話しかけやすい様に にこやかにしていても良かったかなとも思います。

2日目は シングルの交流試合だったので、朝から地味に気合が入っていました。やはり試合なので 肩に力が入っていましたが、合間に兵庫県のチームの人と話す機会が多くなったので、少し力が抜けて来ました。

全勝したのですが、今回の遠征は雨が多く 慣れている沖縄チームに比べると、私達は不利だったと思うので 我慢する時間帯も試合中には少なくなかったです。

色々な事を考えて悩んでいた時に 熱心な先生からの言葉などが 私にいっぱい勇気をくれたりしました。 チームを盛り上げたり、指示するだけじゃなく、初めて接する私に 一生懸命アドバイスとか 人間性の事などを教えてくれたことが嬉しかったし、この人達に引率してもらって良かったなとも思いました。

3日目の島田杯では結局17勝1敗で兵庫が勝ったのですが、1敗してしまった事は悔しかったです。その「悔しい」気持ちは チームとしては、勝ったのだからという気持があったからだと思います。きっと私は兵庫県に誇りを持っている事ではないかな？と感じました。

4日目は沖縄の人との最終日で、個人戦「いちやりばちよーで一杯」(出会えば皆 兄弟 という意味)という大会でした。この試合は、全学年一緒なので行く前からずっと意識していました。結果は優勝できて ホツとしました。「これで沖縄の人との交流が終わってしまうのか」と考えたら寂しくなりましたが「3月に会おうね」と約束したら少し落ち着きました。

5日目は兵庫人だけで 観光でした。この日も早く終わってあつと言う間に伊丹空港でした。これでラストの年だし もう遠征には参加出来ないけど、私は本当にテニスが出来た事、お金を出してくれている親、温かかった引率の先生や沖縄の人達、一緒に行けたメンバー達に感謝しないといけないと凄く感じました。

悩んだ事も沢山あったけど やっぱり「自分ってテニスが好きなんだ。」「テニスしていて良かった」って一杯感じる事が出来ました。

これからも人を大切にして、何かに感謝しながら、何かを頑張り続ける事は大事だと思います。ありがとうございました。

17歳以下女子 真田 涼子(園田学園高校)

この沖縄遠征に兵庫県代表として選ばれて本当にうれしく思います。

私が沖縄遠征に行かせてもらったのは今回で2回目です。1回目は中学3年生の時です。

その時は歳上の人達についていくので精一杯でした。しかし今回は最高学年なので、手本になれるように頑張ろうと思いました。

沖縄に着いた時はすごく暑くて、兵庫県との気温の差にびっくりしました。この日はダブルスの練習をしました。ポーチにあまり出られなかった事が明日からの課題になりました。しかし、次の日体調を壊し、少ししかテニスをする事が出来なくなって情けなかったです。

島田杯には出場することは出来ましたが、思うように体が動かず大変でした。体調管理をするのもトップになるためには必要だと思うので、これを機に今まで以上に気をつけたいと思います。

そして前回行った時に出来た沖縄の友達が、私を見て笑顔で声をかけてくれたのは、とてもうれしかったです。お別れの時は寂しかったけど、今年の夏のインターハイで会おうと約束しました。それに向けて精一杯頑張りたいと思います。

最後にお世話になった先生方を始め、兵庫県テニス協会の皆さんに心より感謝しています。

本当にありがとうございました。

15歳以下男子 矢多 弘樹(甲南中学校)

今年は去年に引き続き2回目の兵庫沖縄交流会に参加することができました。去年沖縄に行った時には、沖縄に行くことじたいが初めてだったので、行く前からワクワクしていました。

そしていざ沖縄に行ってみると最初に思ったことがとても暑いということでした。少しテニスをしただけで汗をかき、常に半そで半ズボンでテニスができる状態でした。またその他に初めてテニスをするテニスコートや沖縄県の人達とも初めて出会ったので、すべてにおいて緊張していました。

しかし今年は2回目だったので、また去年とは違うことがたくさんありました。今年は全体的にちょっと雨が降ったので去年よりは涼しく感じました。でも兵庫県に比べれば全然暖かいのでとても気持ちよくテニスができました。暖かいと怪我もしにくいと思うので、とても良かったと思います。

また沖縄県の人達とも会うのが2回目の人達が多かったので初日からたくさんの人達としゃべる事ができたので、去年よりもさらに仲良くなれたので良かったです。これからも試合会場とかで会うことがあればもっと仲良くなっていきたいと思いました。

テニスの面では、島田杯ではシングルスでは勝つことができたけど、ダブルスでは負けてとても悔しい思いをしました。でもその後に行われた「いちやりばちよーで一杯」では優勝することができて、とてもうれしかったです。このような冬なのに暖かい環境でテニスができるというのは、怪我もしにくいし、思いっきりテニスができるのでとてもいい経験になったと思います。

このような兵庫沖縄交流会が行えるのも兵庫県、沖縄県テニス協会があつてできることなのでとても感謝したいと思います。

またこの遠征で経験したことを今後に生かせるようにしたいと思います。

15歳以下男子 竹元 佑亮(トッパン)

今回の沖縄遠征は、2回目の参加でした。前回にできなかったことや、技術力の強化を自分なりに高め、前よりも成長することを目標に頑張りました。まず、現地に着いてから沖縄の選手たちとダブルスの練習試合をして交流を深めました。前回とは違い不安もなく、沖縄の選手もすぐに仲良くなれたので、とても楽しめました。2日目は、シングルの練習試合をしました。しかし、2日目までは、思ったより調子が上がらず、負けてばかりでした。でも、コーチのアドバイスを受けながら、何とか自分のプレーができたのでよかったです。3日目の島田杯では、ダブルスは負けてしまったけど、シングルスは、練習試合で負けていた相手に勝つことができたので、とてもうれしかったです。結果、17勝1敗で兵庫県が勝ちました。団体戦は楽しかった反面、かなり緊張しました。4日目は、シングルの個人戦をしましたが、2回戦であっさり負けてしまいました。でも、自分の中では、良いテニスができたと思っています。

沖縄という恵まれた気候の中で、強い選手と試合をし、色々な人の試合を見て自分なりに学べたことはたくさんありました。それを、兵庫に帰ってきてこれからの練習に生かしていけたらいいなと思っています。遠征でお世話になった、先生方、コーチ、沖縄の人たち、親に感謝しています。また期待に応えるような結果も、残していきたいです。

今年は中学生最後の1年です。新しいことにチャレンジし、テニスも勉強も高い目標を持って頑張ります。この遠征に参加させていただいて、本当にありがとうございました。

15歳以下女子 山本 ひかり(園田学園中学校)

まず、この沖縄遠征に2年も連続で参加させて頂く事が出来て、本当に感謝しています。

有難うございました。

この遠征では、今後のテニス人生に絶対にプラスになる凄く貴重な経験をさせてもらう事が出来ました。

まず一つは 沖縄のジュニアから学んだ事が、沢山あった事です。

沖縄のジュニアは、心のこもった感謝の言葉や挨拶が、しっかりと明るく言っていました。

私は部活動に入って毎日練習していますが、挨拶は特に形だけで言ってしまうたり、教えていただいたり、差し入れをもらったり、公欠の印鑑をもらったりする時「当たり前」と思ってしまう時があって、お礼がいい加減になってしまっていた事が、数え切れない程ありました。

そんな自分を見つめ直すきっかけを作ってくれた、同年代のジュニアに感謝したいなと思います。

初めて対戦する相手ばかりと試合をして、新しい課題が見つかって、毎日の日誌にそれを文で表現しなければいけなかったのも、色々な物を身に付けられて、成長出来たと思います。

島田杯では、団体戦という事で 凄く集中出来て、圧勝する事が出来ました。

兵庫県代表チームの力になれて嬉しかったです。琉球ガラスで出来たメダルも 宝物です。

この遠征のメインはやはり、島田さんがおられたからこそ生まれた「島田杯」だと思っているので、より一層気合いが入りました。

島田さんという方が思い切って沖縄に行かなければ、この遠征は生まれなかったし、友達とも会える事が出来ませんでした。

そう思うと、改めて凄い事だと思うし、感謝しなければいけないと思いました。その場に自分が立てて、試合で交流する事が出来て光栄です。

テニスをしていて頑張る努力して来て良かったし、恵まれた環境にいる事に感謝しようと思います。

親、兵庫県、沖縄県のテニス協会の方、コーチの方、ジュニア...

今回関わった、応援してくれている全ての方々に 恩返しする様な気持ちで、これからのテニス人生ずっとコートに立ち続けようと思います。

最後に、皆さん本当に有難うございました。

この貴重な経験、思い出をしっかりと焼付けて、今後もっともっと頑張っていきたいと思っています。

今回私は小学校 6 年生以来 2 度目の沖縄遠征に参加させていただきました。前は皆年上の方ばかりで皆さんについていくのが精一杯で無我夢中の 5 日間でした。今回は何事も積極的に行動できるよう

1 日 1 日を大切に過ごしたいと思いました。

1 日目は、午後沖縄に到着しすぐに練習、開会式そしてダブルスの試合がありました。冬でも夏のように暑くすぐに体力がなくなっていました。体調管理をしっかりしたいと思いました。

2 日目は、シングルの試合がメインでした。少し緊張しました。1・2 試合目は自分のボールが打てずすぐにボールが浅くなってしまい、相手に決められるパターンが多かったです。でも、3 試合目は怖がらずに振り抜かれて良いプレーができました。

3 日目は、島田杯でした。兵庫県の代表選手として、しっかりと自覚を持って沖縄選手と戦いたいと思いました。試合は、兵庫チームが 17 勝 1 敗で勝利を収め先輩方の記録に続けることができるととてもうれしかったです。

4 日目は個人戦の交流試合でした。決勝まで、勝ち進むことができ決勝で兵庫の山本みどりさんと対戦できたことは貴重な経験で良い勉強になりました。今回の練習課題を見つけることができました。沖縄の選手との交流はこの日が最後でした。沖縄の方々はとてもやさしくて話やすかったので、離れてしまうのが悲しかったです。また、試合会場などでお会いしたいと思いました。

沖縄遠征は、初日から 4 日目の交流試合が終わるまではとてもハードな日々でした。朝 6 時半に起きて会場までランニングした日もあり、毎日くたくたになり、夜 9 時半には寝ていました。でも最終日はショッピングをしたり観光もでき、楽しかったです。お世話になった皆様ありがとうございました。

僕がこの遠征でまず感じたことは、沖縄は暖かくてすごいテニスがしやすい気候で、兵庫の冬の時期ではできないような半そで半パンでプレーできるのが羨ましいなということでした。また、沖縄のコーチや選手の人たちはすごく明るくてすぐに仲良くなれたし、楽しく過ごすことができました。

沖縄の人たちと試合をして勝つ事もできたけど簡単には勝たせてくれなかったし、勝ちきるために必要なことを、また新たに学ぶことができました。

島田杯でのシングルスは自分のテニスで戦おうとする中で上手いかない事がすごく多かったけど、そんな中でも落ち着いてプレーして勝てたことは今後の試合に活かしていこうと思いました。

ダブルスでは自分たちのペースで戦うことができました。その結果、17 勝 1 敗で兵庫が勝ったのでうれしかったです。

「いちゃりばちょうでい杯」では全グレード合同で今回 15 歳以下一位の沖縄の人と当りました。中盤リードされてたけれど最後まであきらめず頑張って逆転する事ができたのでうれしかったです。次の試合では 17 歳以下の沖縄の人にパワーで負けてしまったので、これからもっと練習して相手のパワーが強くても自分から違うところを攻め込んでパワーを封じれるぐらいのテニスができるようにしていきたいです。この大会は兵庫の 15 歳以下の人が優勝しました。試合を見ていて上の人と戦う時のいい勉強になりました。

今回の沖縄遠征で見つけた課題がたくさんあったので兵庫でまた頑張っていこうと思います。沖縄で過ごした 5 日間を無駄にせずこれからのテニス人生のプラスにしていき、また来年も来れるように頑張っていきたいです。

最後に、この沖縄遠征に参加してくれた親、また兵庫、沖縄のサポートしてくれた人たちに感謝して、将来プロとして世界で戦えるようになるためにこれからも頑張って強くなっていきたいです。

学ぶことの多い 5 日間を沖縄で過ごせてよかったです。ありがとうございました。

今回、兵庫県の代表選手に選ばれて、1月4日～8日の沖縄遠征に行けるのをとても楽しみにしていました。遠征メンバーは僕にとってお手本になる選手ばかりだし、暖かい沖縄で思い切り練習や試合ができるからです。

遠征の前に、壮行会があり「テニスは人間性の土台ができていないと技術を積み上げていくことができない。このチャンスを生かして人間的にも成長してきて欲しい」「親善大使として沖縄の選手たちと積極的に交流しよう」など話してくださいました。

ただ、楽しかった一だけで帰ってきてはいけないんだと思いましたが、僕は恥ずかしがり屋だから、“親善大使”はちょっと自信がありませんでした。それで一人ずつ抱負を言う時、「もっと強くなって帰ってきたいです」と言いました。

沖縄の選手たちとは試合をしたら自然としゃべれるようになり、島田杯の後ダブルスを組んでから仲良くなりました。ブラシとか片づけをやっていると「代わって、代わって」と言ってやってくれました。

この遠征から帰ってきて、テニスの技術が向上したとか、強くなったとかは、あまり感じてなくて、沖縄のみなさんにとっても親切にしてもらったことや、パーベキューや「いちやりばちよーでえ一杯」、兵庫のチームのみなさんの「交流」の方が断然心に残っています。

でも、そういう楽しい雰囲気の中で、気負わないで自分のテニスをのびのびとやれたと思います。ぼくは、試合で力が入り過ぎて、ショットがコントロールできなくなったり、悪い流れになったりすることがあるのですが、いちやりばちよーでえ一杯では力まずに攻めていけました。この感じを思い出して、これからのテニスに活かしていきたいです。

沖縄遠征は本当に楽しかったです。このような機会を与え、支えて下さったテニス協会の方々  
沖縄のみなさん、先生、ありがとうございました。

私が一番思い出に残っているのは「いちやりばちよーで一杯」です。「いちやりばちよーでー」とは「出会えば兄弟」という意味です。つまり、U13 から U17 までの選手がごちゃまぜになり試合をするのです。私の1試合目は沖縄の高校生でした。必死でボールを追いかけてました。コースを狙って打っても返ってくるし、ミスもしないし、1ポイントを取るのがとても大変でした。私はイージーミスの連発。なんとかタイブレークまでいきましたが、私のサーブは打ちこまれ、サーブリターンを無理やり打ちこみ、カウントは0-3に、その後気持ちを切替え頑張ったら、少し調子がでてきて勝つことができました。2試合目も沖縄の選手、3、4試合目は兵庫の選手でした。色々なタイプの選手と4試合もできとてもよい経験ができました。

テニス以外でもたくさん事を学びました。印象に残っているのは沖縄の文化、兵庫と沖縄の友愛提携の始まりです。島田さんが沖縄県の県知事だったということは知っていましたが、兵庫県出身で、当時沖縄は戦時下ということは知りませんでした。島田さんは「沖縄に行くことは死ぬこと。自分が断ったら他の人を殺すことになる」と思い、引き受けることにしたそうです。もし、島田さんが知事にならなかつたら、兵庫と沖縄の友愛関係はなかったのでありがたいなあと思いました。

坂本会長をはじめ、コーチ、関係者の方々、ありがとうございました。  
これからも今回の合宿での経験を生かして頑張りたいと思います。

今回の沖縄遠征に参加させて頂いてありがとうございました。

まず、沖縄県に到着して兵庫県との気温の違いにびっくりしましたが、沖縄県の選手は冬でもこんなに暖かい所で練習ができてうらやましいな。と思いました。

でも、私は2時間前まで寒い所に居たので、この暑さの中でもしっかりプレイしないと！という気持ちになりました。

2日目には暑さにも慣れてきて、いつも通りのテニスをする事ができましたが、沖縄県の選手はとても粘り強いテニスで、ポイントが取りにくく長い試合になりました。その場所の状況に早く慣れるのも大事な事だと思いました。

島田杯のダブルスでは途中でペースを相手にもっていかれそうになったけれど、組んでいた東さんと最後まで協力してセカンドのタイブレークを取る事ができました。個人戦では全国で活躍されている山本みどり選手と試合をする事ができました。とても速いサーブや深く重いボールを打つ事が出来たり、一緒のコートに立った事は、すごく勉強になりました。チームとして17-1で兵庫県が勝ったのでうれしかったです。

毎日のレポートにもコーチがコメントしてくださって、自分では気づかないことを教えてもらう事ができました。一緒に行った先輩達もとてもやさしくて楽しかったですし、普段は出来ない沖縄県の選手と試合ができたし、島田観さんを通じて沖縄県と兵庫県の歴史を知ることができてとても為になったと思います。

この沖縄遠征で学んだ事をこれからの大会に生かしていきたいと思います。沖縄遠征にご協力してくださった皆様、5日間ありがとうございました。